

2024_1104「森影の彗星（写真）」日々の理科 3742号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

肉眼でも見える彗星として大いに話題になった「紫金山・アトラス彗星」も、少しずつ太陽から遠ざかっています。11月上旬になって、等級も6等星相当を下回り、現在は7等級ちかくまで暗くなっています。そのかわり、太陽からの離隔（見かけ上の離れ具合）も大きくなり、日没時刻も早くなっているため、夕方18時過ぎから夜21時ぐらいまで観測が可能になってきました。

彗星はもともと「淡い光芒」の天体なので、たとえば「現在は3等星相当」といっても、恒星とちがって肉眼ではなかなか見つけられません。もちろん6等星相当となれば肉眼での観望は不可能で、双眼鏡や天体望遠鏡がないと見えません。しかし、写真にはまだまだ写ります。今回の写真もごく普通の「デジタル一眼レフカメラ」で撮影しましたが、尾までよく写っていました。森影に沈む彗星は、少し淋しげに見えました。紫金山・アトラス彗星は、間もなく地球から去り、ほぼ永久に見えなくなります。その前に、もう何回か撮影に挑みたいと思っています。

(2024年11月上旬／北軽井沢)

